

洪水ハザード情報について

水防法に基づき、青野川の浸水域をマップに掲載しています。
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1 氾濫の種類

- 雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫 大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増します。最大の注意が必要。

内水氾濫 その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

2 説明(外水氾濫)

- この「マップ」で使用しているハザード情報は、南伊豆町に關係する河川(青野川)が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合がありますので、十分注意しましょう。

青野川の目安

浸水深	浸水程度の目安	
	浸水深	浸水程度の目安
5.0m～	5.0m～	2階の屋根以上が浸水する
2.0～5.0m	2.0～5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0～2.0m	1.0～2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5～1.0m	0.5～1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0～0.5m	0～0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)

※13頁からの「詳細図」に掲載

3 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこるおそれがある場合、その旨を注意して行う予報。

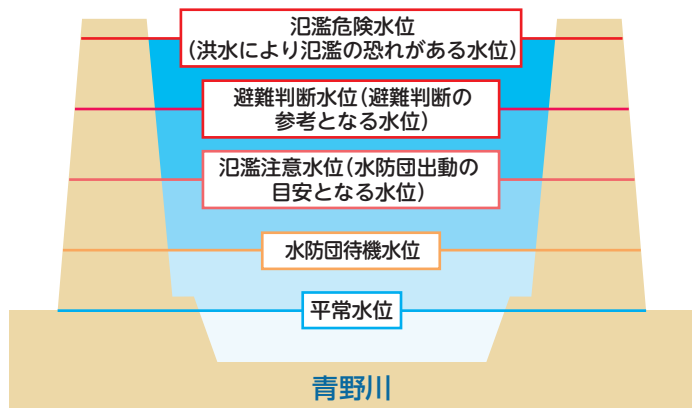
洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害がおこるおそれがある場合、その旨を警告して行う予報。

指定河川洪水予報など

- 青野川については、水位周知河川(静岡県知事指定河川)に指定されており、静岡地方気象台の予測する降水量をもとに、河川を管理する静岡県が河川水位の危険度を予測し、「洪水予報」を共同発表します。

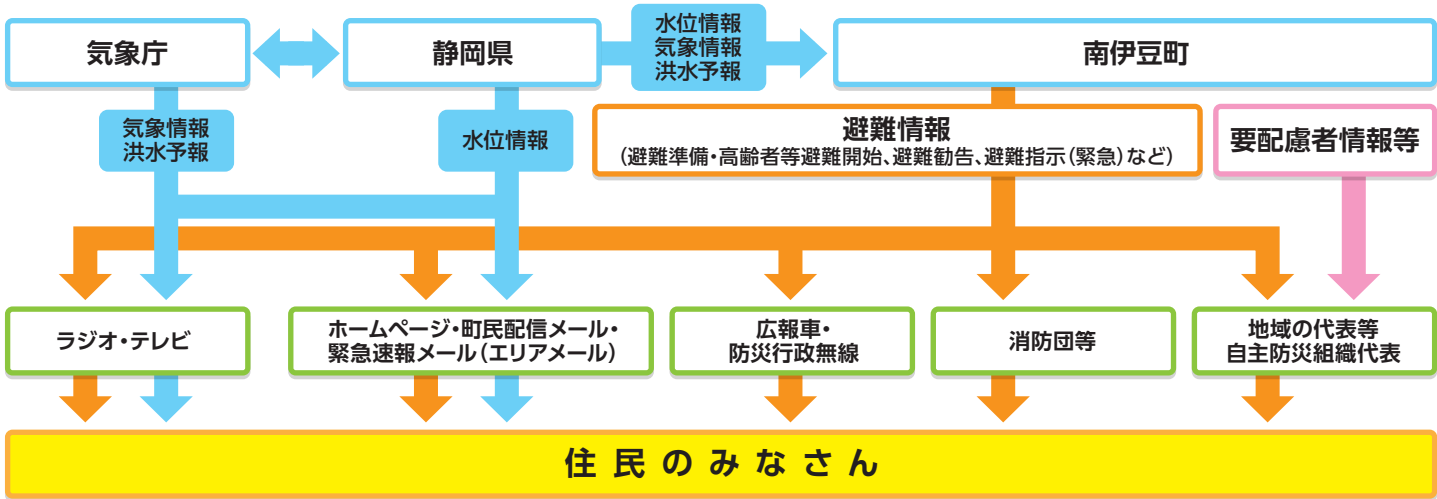
水位にともなう判断基準イメージ



※基準水位や現況水位は、「静岡県河川・砂防情報システム」で確認できます。
<http://www.kasen.pref.shizuoka.jp/bousai/>

4 洪水情報の伝達ルート(土砂災害情報も同じ)

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



避難情報の伝達ルートがオレンジ色になります。
情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。